



## 2022年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年8月4日

上場会社名 芝浦メカトロニクス株式会社

上場取引所 東

コード番号 6590 URL <https://www.shibaura.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 今村 圭吾

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 専務執行役員 経営管理本部長 (氏名) 池田 賢一

TEL 045-897-2425

四半期報告書提出予定日 2021年8月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有 (当社ウェブサイトには決算説明資料を掲載予定です。)

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第1四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第1四半期	10,100	2.4	657	110.1	608	96.3	192	
2021年3月期第1四半期	9,865	5.8	312	61.2	309	58.0	70	84.1

(注) 包括利益 2022年3月期第1四半期 77百万円 ( %) 2021年3月期第1四半期 68百万円 ( 85.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第1四半期	43.69	
2021年3月期第1四半期	15.87	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第1四半期	58,480	21,290	36.4	4,821.64
2021年3月期	58,294	21,854	37.5	4,949.41

(参考) 自己資本 2022年3月期第1四半期 21,290百万円 2021年3月期 21,854百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期		0.00		110.00	110.00
2022年3月期					
2022年3月期(予想)		0.00		170.00	170.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	23,000	1.5	1,700	3.3	1,600	1.0	500	56.3	113.25
通期	48,000	7.2	4,000	35.2	3,800	34.7	2,100	6.6	475.67

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 有 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期1Q	5,192,619 株	2021年3月期	5,192,619 株
期末自己株式数	2022年3月期1Q	777,003 株	2021年3月期	776,974 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期1Q	4,415,638 株	2021年3月期1Q	4,413,324 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する主旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	3
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(会計方針の変更) .....	7
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

## ①業績全般について

当第1四半期連結累計期間における当社グループの事業環境は、半導体業界については、引き続きIoT、5G、AIなどの強い需要を受け、ロジック/ファウンドリ向け、メモリ向け、ウェーハ向け、パワーデバイス向けなどの設備投資がいずれも順調に推移しました。FPD (Flat Panel Display) 業界については、顧客の投資計画の見直しの傾向が継続しました。

このような環境の中、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高が10,100百万円（前年同期比2.4%増）、営業利益が657百万円（前年同期比110.1%増）、経常利益が608百万円（前年同期比96.3%増）と、前年同期に比べ増収増益となりました。また、事業構造改善費用として特別損失613百万円を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純損失が192百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益70百万円）となりました。

なお、受注高は前年同期に比べ、半導体分野が順調に推移したこと、FPD分野も後工程の大型パネル向け装置が堅調に推移したことから増加し、14,866百万円（前年同期比69.4%増）となりました。

## ②セグメントの業績について

主な事業セグメントの業績は次のとおりです。

## (ファインメカトロニクス部門)

売上高は、半導体前工程では、ロジック/ファウンドリ向け装置やウェーハ洗浄向け装置、パワーデバイス向け装置が堅調に推移し、前年同期に比べ増加しました。FPD前工程では、前年度の受注減少の影響により大型パネル向け装置、中小型パネル向け装置とも低調であったため、前年同期に比べ減少しました。この結果、部門全体では売上高が前年同期に比べ減少し、5,934百万円（前年同期比11.1%減）となりました。

セグメント利益は、半導体前工程が売上増加により増益となったものの、新規開発設備導入に伴う減価償却費、貸倒リスクの織込みなどによる販売費及び一般管理費の増加や、FPD前工程の売上減少などから、全体では前年同期に比べ減益となり、58百万円（前年同期比76.8%減）となりました。

なお、受注高は前年同期に比べ、FPD前工程が顧客の投資計画の見直しに伴い減少しましたが、半導体前工程がウェーハ洗浄向け装置、パワーデバイス向け装置を中心に大きく増加し、全体でも増加しました。

## (メカトロニクスシステム部門)

売上高は、半導体後工程では、先端パッケージ向け装置、FOPLP向け装置、ディスプレイドライバIC向け装置など全般的に順調に推移し、前年同期に比べ増加しました。FPD後工程では、中小型パネル向け装置は堅調でしたが、大型パネル向け装置が前年度の顧客投資計画の後ろ倒しの影響により低調に推移し、前年同期に比べ減少しました。真空応用装置は全体的に低調な結果となりました。この結果、部門全体では売上高が前年同期に比べ増加し3,321百万円（前年同期比37.6%増）となりました。

セグメント利益は、半導体後工程の売上増加が大きく寄与し、632百万円（前年同期比487.2%増）となりました。

なお、受注高は、半導体後工程全般が堅調に推移しました。FPD後工程では大型パネル向け装置が、後ろ倒しとなっていた顧客の投資計画が実施されたことなどにより堅調に推移し、全体として前年同期に比べ増加しました。

## (2) 財政状態に関する説明

## 資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ185百万円増加し58,480百万円となりました。これは主に受取手形、売掛金及び契約資産が660百万円、仕掛品が460百万円増加した一方で未収入金が976百万円減少したことによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ749百万円増加し37,189百万円となりました。これは主に前受金が674百万円増加したことによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ564百万円減少し21,290百万円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間及び通期連結業績につきましては、2021年5月13日に公表いたしました業績予想から変更ありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	19,600	19,512
受取手形及び売掛金	22,538	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	23,199
電子記録債権	602	920
商品及び製品	910	953
仕掛品	1,684	2,145
原材料及び貯蔵品	197	199
未収入金	1,514	537
その他	237	508
貸倒引当金	△1,440	△1,610
流動資産合計	45,845	46,366
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	29,537	29,334
減価償却累計額	△20,952	△21,047
建物及び構築物(純額)	8,584	8,287
機械装置及び運搬具	5,743	6,015
減価償却累計額	△4,480	△4,345
機械装置及び運搬具(純額)	1,262	1,670
工具、器具及び備品	1,103	1,115
減価償却累計額	△909	△932
工具、器具及び備品(純額)	194	183
土地	119	119
リース資産	93	95
減価償却累計額	△34	△38
リース資産(純額)	58	56
建設仮勘定	540	282
有形固定資産合計	10,761	10,599
<b>無形固定資産</b>		
特許権	340	344
その他	298	291
無形固定資産合計	638	635
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	91	91
長期前払費用	5	11
繰延税金資産	715	565
その他	243	216
貸倒引当金	△5	△5
投資その他の資産合計	1,050	879
固定資産合計	12,449	12,114
資産合計	58,294	58,480

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,684	10,816
電子記録債務	—	359
短期借入金	5,050	5,050
リース債務	16	17
未払法人税等	533	160
未払費用	2,748	2,789
前受金	672	1,346
役員賞与引当金	38	15
その他	549	595
流動負債合計	20,293	21,151
固定負債		
長期借入金	5,800	5,800
リース債務	47	45
長期未払金	2	—
退職給付に係る負債	6,792	6,720
役員退職慰労引当金	22	21
修繕引当金	311	305
資産除去債務	91	67
長期預り保証金	3,078	3,078
固定負債合計	16,146	16,038
負債合計	36,439	37,189
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,761	6,761
資本剰余金	9,037	9,037
利益剰余金	10,199	9,519
自己株式	△4,013	△4,014
株主資本合計	21,984	21,304
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	15	14
為替換算調整勘定	279	357
退職給付に係る調整累計額	△424	△386
その他の包括利益累計額合計	△129	△13
純資産合計	21,854	21,290
負債純資産合計	58,294	58,480

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
売上高	9,865	10,100
売上原価	7,098	6,626
売上総利益	2,766	3,474
販売費及び一般管理費	2,453	2,816
営業利益	312	657
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	2	1
為替差益	10	—
デリバティブ評価益	13	—
その他	25	12
営業外収益合計	52	14
営業外費用		
支払利息	23	23
為替差損	—	7
その他	31	33
営業外費用合計	55	63
経常利益	309	608
特別損失		
事業構造改善費用	—	613
特別損失合計	—	613
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	309	△4
法人税、住民税及び事業税	35	36
法人税等調整額	203	151
法人税等合計	239	188
四半期純利益又は四半期純損失(△)	70	△192
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	70	△192

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	70	△192
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1	△0
為替換算調整勘定	△51	77
退職給付に係る調整額	47	38
その他の包括利益合計	△1	115
四半期包括利益	68	△77
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	68	△77



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、収益認識会計基準等の適用による、当第1四半期連結累計期間の損益及び期首利益剰余金に与える影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、当第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	ファインメカ トロニクス	メカトロニク スシステム	流通機器 システム	不動産賃貸	
売上高					
外部顧客への売上高	6,676	2,413	297	477	9,865
セグメント間の内部売上高又は振替高	11	52	—	—	64
計	6,688	2,465	297	477	9,929
セグメント利益又はセグメント損失(△)	250	107	△116	140	382

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	382
全社費用(注)	△72
その他	△0
四半期連結損益計算書の経常利益	309

(注) 全社費用は、報告セグメントに帰属しない当社の研究開発費のうち全社共通に係る要素開発費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

## II 当第1四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	ファインメカ トロニクス	メカトロニク システム	流通機器 システム	不動産賃貸	
売上高					
外部顧客への売上高	5,934	3,321	373	471	10,100
セグメント間の内部売上高又は振替高	9	38	—	22	71
計	5,944	3,360	373	494	10,172
セグメント利益又はセグメント損失(△)	58	632	△74	140	756

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	756
全社費用(注)	△98
その他	△50
四半期連結損益計算書の経常利益	608

(注) 全社費用は、報告セグメントに帰属しない当社の研究開発費のうち全社共通に係る要素開発費用であります。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファインメカトロニクス」セグメントにおいて、横浜事業所内の老朽化した建物の取り壊しに伴う減損損失について特別損失(事業構造改善費用)に計上いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては214百万円であります。